

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)海老名駅間B-2地区施設(商業)	階数	地上4F
建設地	海老名市上郷字鎌倉町600番3	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,000 時間/年
建物用途	飲食店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年10月 予定	評価の実施日	2016年8月31日
敷地面積	2,353 m ²	作成者	㈱アール・アイ・エー東京支社
建築面積	1,708 m ²	確認日	2016年9月7日
延床面積	5,007 m ²	確認者	㈱アール・アイ・エー東京支社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.6 ★★★★★★☆☆☆☆ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	★☆☆☆☆ 30% ★☆☆☆☆ 60% ★☆☆☆☆ 80% ★☆☆☆☆ 100% ★☆☆☆☆ 100%超: ★ 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.1 LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.9 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3 Q のスコア= 3.5 LR のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 当開発における都市デザインコンセプトを「段丘都市」とし、海老名の失われつつある段丘崖を再構築しシンボルとすることで、新たなアイデンティティの確立を図る。段丘都市としてデザインされた計画名称「VINA GARDENS」は、地理的、機能的、景観的、そして東西のまちや駅を結ぶ「都市の広場」としての位置づけを担い、「憩う、くらす、育む」の3つのキーワードに相応しい「新たな海老名のライフのスタイル」を提案する。		駅間全体でまちなみや環境への配慮を行うプロジェクトの第1弾となる。これから約10年かけて新たな「段丘都市」を創出する。
Q1 室内環境 設計室温を冬期22℃、夏期24℃にて設定。外皮性能は窓部：U=1.69、外壁部：U=0.617～0.769。化学汚染物質についてはF☆☆☆☆以上を指定している。	Q2 サービス性能 維持管理に配慮し、外壁にフッ素、鉄部は処理を行っている。共用部は段差の無い計画としている。給水管・汚水・雑排水管にBを、電気系統は、EPS、分電盤、ケーブルが仕上を痛めず更新・修繕出来る計画としている。	Q3 室外環境（敷地内） 地区全体で「段丘都市」のコンセプトを掲げている。足元に纏う緑化を充実させるとともに、外装のデザインルールを設けることでまちなみに配慮した計画としている。
LR1 エネルギー エネルギー目標値を事業者に提示。運用管理体制を作成している。	LR2 資源・マテリアル 基礎躯体に高炉セメントを使用。長尺シート・タイルカーペット(床)、タイル(壁)にリサイクル材を使用。節水型機器を選定している。	LR3 敷地外環境 地表面対策面積率57.39%。風に対してのシミュレーションを実施。周囲の日照阻害について、当該敷地は商業地域であるが隣接する準工業地域同様5h3hの基準を満たしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される